

宮日公錦、通称は圖書である。杖旗公子一代の著述は
壹郎繪文集のほか、書籍考・法律考・制度考など四十
八部七十一巻におよぶという。

自銀文郎は帰ってから十年、天明六年七月十一日、
五十七歳で同邸に没した。

〔鶴澤傳史〕 天明六年七月、森 繁茂が、大忠院と
号す。江戸長志寺に葬る。詩稿壹冊あり。(長志寺、不明)

龍鼎山養賢寺は毛利家の菩提寺である。この養賢寺に
ある毛利家墓地の西南隅にある一基の五輪塔に、三者の
法名が刻んであるという。右側「大忠院殿道晴日養大居士」
中央「大忠院殿玉油院主重男」 左側「秋幻院殿
日連大童子」

問題日右側「大忠院殿道晴日養大居士」で、「天明
六年七月十一日 毛利圖書」となっている。ナす北
成これに森駿の供養塔で、「潤忠院殿」文政九年戊戌六
月二日毛利信治郎、「秋幻院殿」安永八己亥年九月七
日 森尚之進」という二重テの法名と共に、文政以後江
戸から移されたものであろう。(この供養塔の所在、法
名については故河野與一翁の調査による。) 森 繁とカ
関連については山本保氏の指示であるが、私が今もつと
も疑問を感じているのは森駿と思われる毛利圖書の法
名で、あるて日蓮宗の戒名のようにあることである。
なかぬ森駿の生母於志後の方日浄土宗(興井家の宗匠)
であった。

過日私に、下野田地又宇山の白蓮庵にある興井節道の
碑を見に行つた。

興井節道は興井春沢のことである。この碑文は系春料

が撰記したものの。興井氏が佐伯藩に仕えるようになって大
次第を記してある。春沢(節道)は晩年を宇山に隠栖し
たが、そのころ白蓮庵は雲集山白蓮寺という一刹であつ
た。

春沢は於志後の方の父親、その孫に森駿があり、興
井寛があることは偶然とはいえない。(おわり)

史料
並 河本之助信吉

〔加藤賢成「豊後遺事」による〕
毛利養賢公、慶長六年阿州へ入益田八助ヲ召シ千禄五
百石ヲ與へ、又丹州へ入並河隱岐守信元ノ子九助ヲ召シ
千禄三百石ヲ與へ、並ニ家老トス。公ノ人オチ不次ニ權
用セルハ、皆此ノ類ナリ。

並河九助後名ヲ筑後ト改ム。養賢公更ニ姓名ヲ賜ヒ、
毛利本之助信吉ト称ス。子孫相繼テ毛利氏ニ事フ。八助
名ヲ主殿ト改メ、後ニ禄ヲ増サレテ千石ニ至ル。

毛利松林公薨ズ。世子高尚僅ニ二歳ナリ。並河信吉之
ヲ奉ジ、封ヲ嗣ガシ事ヲ幕府ニ請フ。森九郎左衛門曰ク
公子僅ニ二歳未ダ嗣ガ当カラス、先公ノ弟次郎八景ヲ立
ツベシト。信吉偶テ曰ク、公子四ニ三歳且ツ強健ナリ、
宜シク立ツベシト。老婢ヲ撰ヒ公子ヲ負ハシメ、老中酒
井雅樂頭ニ請リ請テ曰ク、世子成文此ノ如シ。然ルニ別
ニ継嗣ヲ求ム、臣其故ヲ解セズ、ト、雅樂頭世子ノ嗣ガ
事ヲ許ス。長川公封ヲ成立ヲ得タル、安ニ信吉輔導ノカナリ。
佐伯藩初メ封二万石、後本野田等十村ヲ割キ、森
九郎左衛門二分典文ルヲ以示樂八一万八千石ナリ。豊ル
ニ並河信吉因テ幕府ニ請ヒ、同邑ヲ實檢スレバ歲入二万
石アリト称シ、遂ニ二万石ノ朱印ヲ得タリ。